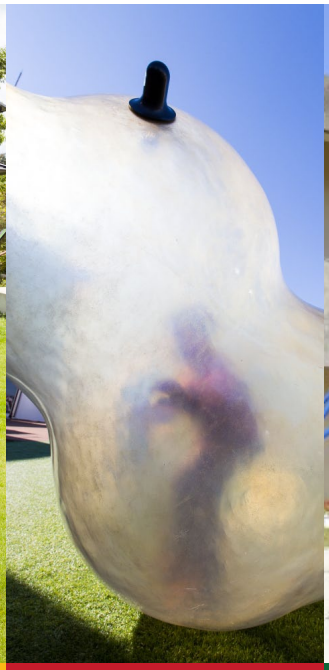
view

2014 No.68

KOTOBUKI
PUBLIC SPACE
MAGAZINE

防災



遊具

健康

サイン

ストリートファニチャー

コトブキは
街づくりを
応援します

これからの街づくり特集

- ■街の景観
- ■防災広場
- ■東北復興
- ■観光3Dサイン
- ■子育て支援
- ■保育園遊具
- ■小学校遊具
- ■公園サイン

シェルターにより、日差しや雨を防いで快適。

サイン&ベンチで待合いのくつろぎ空間を創る。

駅前広場

未来へ向かう、Start Station。新たな街づくりの象徴に。

「豊橋鉄道 三河田原駅 駅前広場」
愛知県田原市

三河田原駅は、豊橋鉄道渥美線の始発駅であり、各方面行の路線バスなどと連結して、渥美半島の中心機能を担っているターミナル駅です。利用者数は一日平均約3,000人の方々で、その生活を支える重要な役割を担っています。これまでは、駅ロータリーがなく、広場もないため、待合いや乗り継ぎが不便であること、また周辺の道路も整備されておらず、駅へのアクセスが悪いということが課題でした。これらの解消を図るため、平成17年度より都市計画道路田原駅前通り線と都市計画道路田原駅南線の整備の着手にあわせて、道路整備に伴う線路の支障移転とともに、駅舎の移転、ロータリーおよび駅前広場の整備を行ってきました。2013年10月27日、「新駅舎」「駅前広場」が完成。この駅前広場においてコトブキは、シェルター、サイン、ベンチを納入しました。

新駅舎の扇形のデザインは、世界的な建築家として知られる安藤忠雄氏が設計したものです。安藤氏は「心が集まる穏やかなイメージ」で設計したといいます。延べ床面積は約446平方メートル。左右それぞれに駅施設と市の多目的スペースが配置されています。基本理念は、「Start Station」。“未来に向かう新しい田原のはじまり”という意味が込められています。シェルターの設計は「安藤忠雄建築研究所」に依頼。断面形状は駅舎の平面形状である扇形から継承しています。

整備への「構想」などをお聞かせください。

街づくりでの構想において田原市は、その将来都市像として、うるおいと活力のあるガーデンシティを目指しております。今回の事業は田原市の玄関となる駅とその周辺整備を目的としており、テーマは「ガーデンシティの顔づくり」です。整備に関する目標は次のことを掲げています。

1.たはらオリジナルの文化、産業・風景のある場　2.賑わい・活力のある場　3.商業集積のある場　4.利便性の高い交通結節点　5.様々な情報の受発信のある場　6.来訪者のおもてなしの場　7.市民の誇りと愛着の感じる場　これら7点です。

市民の声を大きく取り入れて実施とのこと。

今回の事業計画は平成17年から行ってますが、道路事業としての都市計画決定は昭和40年からで、以来、関連する市街地整備とともに事業を進めてきたという経緯があります。計画の策定にあたっては、幾度も地元住民との意見交換会を行ってきました。また、市民発議の「駅前を考える会」の意見や、市が行ったアンケート調査も整備の具体的な計画策定の重要な要素となっています。市と市民の「まちを良くしたい」という思いが受け継がれてきた結果、ここまでの整備ができたものと思います。

駅舎設計を安藤忠雄建築研究所に依頼、その経緯は―。

テーマの中心となる駅舎建設では難航しました。そんな中、「安藤忠雄氏にお願いしたらどうか」という「声」が出たのです。「こんな小さな駅の設計を受けてもらえるだろうか」などの意見が大勢でしたが、当時の幹部が「駄目もとで当たって砕けろ」とのことで直接お願いに伺い説明したところテーマに賛同を得て受けていただく運びとなりました。特徴は、やはり独特の扇形デザインです。駅前広場側は街の玄関として穏やかで柔らかな表情を醸し、対照的にホーム側は直線的でダイナミックな表情となっています。内部の半分は駅舎として、半分を市の「交流ひろば」としています。ここには光であふれ風を感じるテラスを設置。さらに線路と駅舎の間に設けた、緑を「育てる壁」も特徴です。

シェルターやサインの評価はいかがでしょうか。

シンプルでキレイだと、とても嬉しいお言葉をいただいています、シェルターは駅舎との一体感を形成していますし、サインはデザイン統一が図られています。まさに田原市の玄関である美しい駅舎と駅前広場を整備することができました。

田原市役所
街づくり推進課

防災広場

快い風と光を楽しみながら、安全・安心を実感する。

「三井アウトレットパーク 滋賀竜王」
滋賀県蒲生郡竜王町

「三井アウトレットパーク 滋賀竜王」は2010年の7月、滋賀県蒲生郡にオープンしました。2013年の夏には、近畿最大級の237店舗に増床し、駐車場の拡張と共にスケールアップオープン。開設時より、子供たちが遊具で遊べる「ベリーガーデン」を設けるなど、自然に恵まれた環境と共に、ご家族に喜ばれています。今回のリニューアルにより、新たな遊具と「防災ひろば」を開設、その経緯についてお話をお聞きしました。

遊具のある「ベリーガーデン」につづいて「防災ひろば」の開設はどのような流れからですか。

おかげさまで増床することとなり、これに合わせて、憩いの場を増やしたいという意向がありました。また、今あるオープンスペースを意義ある方向で生かしたいということもあります。ベリーガーデンはとても好評いただいており、常に混雑状態であったので、もっと、伸び伸びと遊んでいただけたらとの思いがありました。

施設コンセプトに、豊かな自然環境を生かした「環境共生型アウトレットモール」の設定があり、オープン時のランドスケープデザインにおいても、私共の建物と背景となる鏡山という山との調和を考えられたとのことです。自然に恵まれた立地環境を生かしたベリーガーデンや防災ひろばもこの点に配慮して設計されています。また、お子様の遊びやご家族の触れあいなど、お買い物以外での体験の提供も大切ですね。

「防災ひろば」や遊具の充実をはかるというのは、滞留時間を長くというより、ご来場いただいた貴重な時間の中で、より快適なひと時を過ごしていただければという考え方です。先日も、私が「防災ひろば」を歩いていた際に、ご家族と一緒のお子さんから「お父さん、これ、かまどになるんだって!」という声を聞きました。そうした驚きや新しい体験を、このスペースを通してお客様に提供できることは、実に嬉しいことです。

防災ファニチャーを選ぶ際に留意したことは。

防災ファニチャーは、見た目ではパッと分からないので「実はこうした機能がありますよ」ということを分かり易く提示することもポイントだと思います。さらに、ファニチャーや遊具はお客様が直接触れられるものなので、やはり耐久性を考慮します。錆びないとか褪色しないとか…。いちばんは、安全・安心が大前提ですので、この点が重要な選定基準となりました。

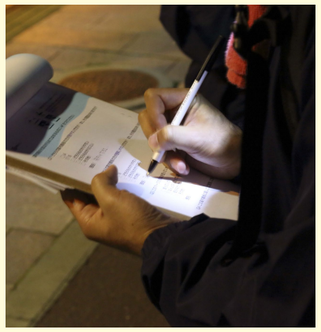
三井不動産株式会社
関西支社 事業二部 事業グループ
岡部 雄高 氏

東北復興

津波発生時の避難についての社会実験を釜石市で実施。

「釜石市 津波避難サイン プロジェクト」
岩手県釜石市

本格的な復興に向け、交流人口の拡大を目指す岩手県釜石市で、『同じ被害を繰り返さない』を合言葉に、津波発生時（特に夜間）の避難を下支えする標識などを調査・評価する社会実験を、株式会社建設技術研究所、株式会社コトブキ、住友スリーエム株式会社、ヨシモトボール株式会社の4社共同主催、釜石市後援により、行いました。この実験は、避難地へ誘導する各種の案内サインに関して来街者の立場から意見をいただき、評価を行うことを目的としたものです。



▶2013年10月31日（16：30～18：15）、11月1日（17：00～18：45）に開催されました。

▶実験では、各サインをたどると避難地に着くよう、街路に配置しました。

調査1：ルート認識機能評価調査
避難誘導サイン・ファニチャーを設置し円滑に避難できるかを伺う調査。

調査2：製品評価調査
設置した避難誘導サイン・ファニチャーの製品に対する評価を伺う調査。

避難目標灯

誘導サイン ポールタイプ

誘導サイン 路面タイプ

誘導車止め

流れる光誘導サイン

東北復興

「いい所に住めてよかった」の声。つながりとみまもりを生む。

「大ケロー丁目町営住宅」
岩手県上閉伊郡大槌町

「大ケロー丁目町営住宅」は、災害により住宅を滅失し、自力での住宅再建が難しい方のための公的な賃貸住宅です。震災後の2013年8月に完成。木材の約6割が大槌町産である、長屋風木造建築12棟（70戸）と集会所1棟です。白い壁と木の茶色が印象的で平屋・二階建てが混在し、あらゆる世代の住人が暮らしています。高齢者のみまもり体制とコミュニティの醸成に配慮され、広場には井戸が設けられ周回にベンチもあります。まさに井戸端会議の場となって談笑する姿が見られます。

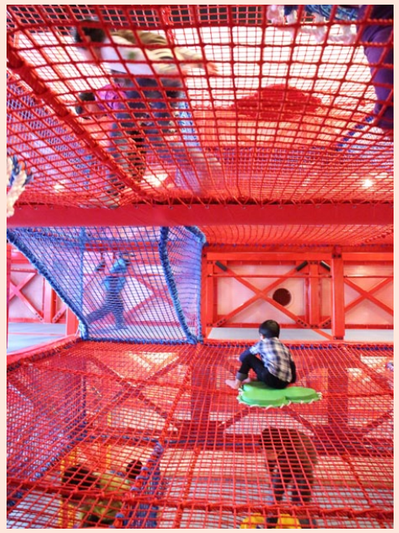
施主：大槌町／独立行政法人 都市再生機構

子育て支援

屋内でダイナミックに遊び体験、幼児から楽しめる子ども未来館。

「TOKO-TOKO おおたわら」
栃木県大田原市

「とことこ歩いていける魅力的なところ」という再開発ビルのコンセプトをもとに、市民から愛称を公募し選定され、2013年12月に全館オープン。1Fの商業施設は地場野菜直売所など食の安全にこだわったショッピングフロアで盛況。2Fと3Fの一部は「子ども未来館」、3Fに市民交流センター、4Fには市立図書館という構成で賑わっています。子ども未来館は、幼児から小学生までそれぞれ楽しめるスペースで屋外に匹敵するダイナミックな遊びを取り入れています。



子どもの夢を描く 子ども未来館（イメージパース）

★2Fの大型遊具や対象年齢別遊具のある「わくわくらんど」は、運動しながら発想や創造性を養うことを目的に、ハイハイで上がれる「コロコロ山」や「バンジーデッキ」「スネークジャングル」「ボールプール」、小学生も思いきり遊べる「タックルマシーン」「ふあふあ滑り台」「ネットジャングル」も。3Fにはお店が並ぶ「キッズタウン」と夢中になれる遊びが満載。屋内ならではの利点を生かした空間です。

子育て支援

「その人気がもったいない」の声に、奮起した技術者達がいた。

「荻窪タウンセブン」
東京都杉並区

設置から30年以上経過している遊具の存続は、屋上改修計画が発端でした。「荻窪タウンセブン」の方が「昔からある人気の遊具を残したい!」という願いから始まって、その遊具がコトブキ製品であったことが分かり、コトブキの技術者は奮起しました。地元では「モグラ」と呼ばれていたこの遊具を、丹念な部分補強と、FRP素材の表面をきれいにする専門技術で、この場に残すことを可能にしました。子どもたちの遊びへの興味は今も昔も不変です。

よみがえったピングポング（愛称 モグラ）

保育園遊具

総合的な子育て支援施設へ。心身を健康に育むために。

「桜木保育園」
埼玉県さいたま市

埼玉県の主要駅である大宮駅の近くにある「のびのびプラザ大宮」は、待機児童改善の一環として子育てをテーマに、市が運営する施設です。1〜2階には民間保育園、3階に「子育て支援センターおおみや」、4〜6階に「市立桜木保育園」（定員165名）が設置されています。桜木保育園の室内には多目的広場を設け、ロッククライミングを設置。人工芝を敷いた屋上の園庭には砂場や遊具があります。子どもが大好きな砂場を広くし複合遊具は耐候性に優れた長寿命のアルミ支柱製品を採用しています。

小学校遊具

たっぷり体を動かす遊具がいい。放課後には地域にも開放。

「天底小学校」
沖縄県国頭郡今帰仁村

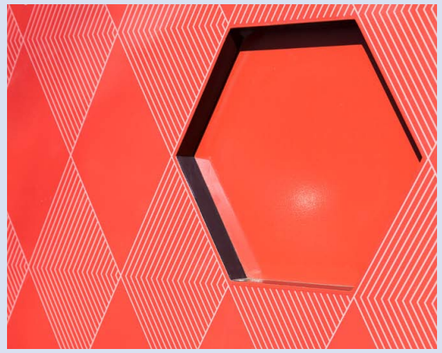
天底小学校では、創立125周年を記念して地域の皆様からの寄付による遊具を校庭に設置しました。当初から、学校では子ども達が遊びながら体力作りができる遊具を検討しており、コトブキの「イーボス」が採用となりました。「イーボス」は、体全体でアグレッシブに遊ぶ立体デザインが特徴の複合遊具です。チャレンジ精神を刺激するアイテムが組み込まれていて、小学生に大人気！ 周辺には公園が少ないため、週末などは、この校庭が地域の遊び場の役割も担っています。

公園サイン

浦和カラーで見やすくタフなサイン。地元のサッカーファンの聖地に。

「駒場運動公園」
埼玉県さいたま市

浦和レッドダイヤモンズ（浦和レッズ）のサポーターには「聖地」と称されている「浦和駒場スタジアム」。この約21,500人が観戦できるサッカースタジアムをはじめ、補助競技場や屋外プール、相撲場など、スポーツとレクリエーションの場として広く親しまれているのが「駒場運動公園」です。スタジアムは、浦和レッズ・レディーズ（通称なでしこリーグ）のホームスタジアムとして知られ、女性サッカーファンでも賑わいます。サインにも、しっかりと地元愛が込められています。



3Dサイン

阿蘇の山々を一望できる大観峰。高精細3D地図でご案内。

「阿蘇ジオパーク」
熊本県阿蘇市

絶好のビューポイントで有名な大観峰。眼下には起伏の美しい、阿蘇谷が広がります。案内サインには高精細3D地図（鳥瞰図）を採用。地形が緻密により分かりやすく再現されています。一般的な平面地図では表現の難しい景観や雰囲気までもが直感的に捉えることができるので、初めて訪れた観光の方にも地域の魅力を細やかに伝えます。木枠は、元からあったものをそのまま使用しています。

パイナップル・イエローが鮮やか。山間の地域特性も一目瞭然。

「サンライズひがし」
沖縄県国頭郡東村

国内をはじめ、海外でも人気の高い沖縄、「東村」では、「多言語表記」を目的とした観光サイン整備がすすめられました。パイナップルの産地として有名な「東村」ということから、サインにも鮮やかな黄色を使用。視認性を高めるとともに、あちらこちらで地域のシンボル的な存在となっています。さらに、海抜の低い地域では津波避難の案内表示も行っています。もちろん3D地図を採用しています。